

決算審査特別委員会

第75号議案・令和4年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定についてから第78号議案・令和4年度白石市外二町組合病院事業会計決算の認定についての4議案は、定例会4日目(9月11日)の本会議において質疑が行われた後、議長および監査委員(四竈英夫)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。同委員会(委員長・角張一郎、副委員長・大森貴之)は、9月13日に審査を行い、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕ふるさと納税推進事業について、令和4年度は寄付受入額が減少しているが、この要因について、どのように分析しているか伺う。

〔答弁〕令和4年度の寄付額は6億4千426万9千200円で、令和3年度と比較すると、14.2%の減少となっている。

全国的な寄付受入額は増加傾向にあるものの、物価高騰等の影響により、日用品への寄付が増加していることが、寄付額減少の要因と推察している。6億円を超える寄付をいたしたことは、本市の返礼品の認知度が向上したことによるものと考えている。

〔質疑〕広報広聴の状況について、令和4年度は公式ホームページのアクセス数が大きく減少しているが、この要因について、どのように分析しているか伺う。

〔答弁〕令和4年度は、前年度と比較すると、約16%減少したが、各公式アカウントのライン、フェイスブック、ユーチューブなど、ホームページ以外にも市の情報発信を増やしたことが要因の一つであると考えている。また、令和4年度は大きな災害等が少なかったことも、アクセス数が減少した一因であると考えている。

〔質疑〕自治会長との地区懇談会、スマイルメール、ご意見ご要望メール等、市民からの提案や提言を実際に市政に生かされたものがあつたのか伺う。

〔答弁〕早急に対応が必要なものについては担当課で措置したものもある。県道や河川の浚渫(しゅんせつ)等へのご意見は、担当課から県に伝え、市道に対する要望については現地調査を行い、随時対応している。

また、保育園の提出書類の一部について、保護者の負担軽減のため、改善を図ったところである。

〔質疑〕市民バスの運営状況について、令和4年度の利用者数が減少しているが、この要因について、どのように分析しているか伺う。

〔答弁〕令和4年度は、中心市街地循環便と合わせ、市民バス9路線全体で8万948人の利用があつたが、前年度と比較すると、3千767人、4.4%の減少となっている。

減少の要因として、人口減少、少子高齢化の進展や、コロナ禍の影響による外出自粛、観光客の減少が一因と考えている。

〔質疑〕アンケート等で、バス利用者や地域の声を聞く機会があつたのか伺う。

〔答弁〕令和5年3月末の地域公共交通計画策定においてアンケート調査等を実施した。調査の結果から、「バス停まで歩いていけない」「タクシーは年金受給者に負担が多い」「地区の行事があつても移動手段がない」等の意見が多数あつた。

また、公共交通を担うバス、タクシー事業者からは、「運転手の高齢化、運転手不足により、現状の運行が限界である」「人件費・燃料費の高騰で新たな投資ができない」との意見もあつた。

市民バスの運賃、目的地までの時間における満足度については高い傾向にあり、鉄道との乗り継ぎや、待合空間、運行時間帯の満足度については低いという傾向であつた。

今後、市内中心部への買い物、通院・通学のアクセス向上のため、市街地循環便と既存路線の乗り継ぎの円滑化を図っていきたいと考える。

〔質疑〕定住促進事業における、移住フェアの参加について、どのような内容か伺う。

〔答弁〕令和4年度は、宮城県や各団体等が東京都内で開催するイベントに出展する形で3回参加し、首都圏在住の方々を中心に移住の相談を行なつた。

現時点で移住につながつた方はいないが、数年後の移住を考えているという声もあつたことから、メールやSNS等を活用し、本市に関心を持っている方